



# 荒屋小学校便り

令和2年11月26日

小松市立荒屋小学校

## 芸術の秋



11月の教育ウィークには、今年度初めての授業参観を行うことができました。分散参観や、新型コロナウイルス感染症対策の対応にご協力いただきありがとうございました。授業参観はいかがでしたか。絵を描く会で取り組んだ子どもたちの作品や、学習のあしあと、授業での教師や友達とのやり取りなど、学校生活のほんの一角でしたが、公開することができました。

さて、学校では、11月中にいろいろな出会いがありました。画家の新保先生、写真家の松本さん、落語家の三笑亭夢丸さんです。全校で芸術の秋を満喫することができました。芸術の道を歩む方たちには、本当に不思議なエネルギーがあります。長い長い時間をかけて磨きかけた芸は、本物だなあということを感じます。子供たちには、本物との出会いをたくさん経験して豊かな感受性をはぐくんでほしいと考えています。心も体も充実した学校生活を送ることができるよう、教職員はもちろん、児童会が主体となった活動も充実させていきます。



春の堤  
2020年  
新保 甚平  
画壇 (株) 曾田製作所

11月9日(月)児童玄関に、八丁川の桜並木を描いた大きな絵が飾られました。春の暖かな日ざしを感じるととてもいい絵です。新保甚平先生が書かれました。「子供たちが、いつも絶えることなく花を咲かせてほしい」という願いを込めて書かれたそうです。

「春の堤」という題名が付いています。春の桜のころの八丁川の堤防は、本当に自然豊かで子どもたちにとっても故郷の風景として心に残る場所だと思います。



この絵は、(株)曾田製作所様のご厚意で荒屋小学校に寄贈されました。ありがとうございました。また、新保甚平先生からも子どもたちに「春の堤」(桜の堤)のポストカードがプレゼントされました。



## オーロラの大地から



11月5日、アラスカフォトライブ「オーロラの大地から」がありました。自然の一瞬一瞬をとらえた写真や松本氏のトークに大変感動しました。荒屋小学校にて、子どもたちと感動を共にすることができ、幸せに感じます。子ども時代の感動体験は、大人になっても忘れがたく大切にしたいと思います。「わあー」「かわいいー」「すごーい」一人一人の言葉は、素直な感情の表れです。ともに時間を過ごした大人の私たちも童心に帰り、アラスカの自然に包まれた素敵な時間でした。



## 落語をきく会



文化庁の文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業により、「落語を聞く会」がありました。本講演に先立ち、10月末に6年生が「所作体験」「太鼓体験」等を経験しました。11月17日の本講演では、初めに三笑亭夢丸さんが、落語のスタイルや所作について子どもたちにも親しみやすくわかりやすく紹介してくれました。その後、代表児童6名が「太鼓演奏」や「小噺」を披露しました。なかなか「上手い」と思わず言ってしまいました。

その後、桂しん乃さん、瀧川鯉津さんの落語、鏡味正二郎さんの曲芸、三笑亭夢丸さんの落語と続きました。落語は見たことがあるけど本物の落語家に合うのは初めての子どもがほとんどでした。子どもたちは、楽しくて、初めから終わりまで笑い転がっていました。

噺家には、前座、ニツ目、真打という段階があり、厳しい修行を経て、真打になるまでには、15年くらいかかるそうです。だからこそ、人を笑わせ、楽しい気持ちにさせる落語家にあこがれをもった子どもも多かったように思います。

